

「赤平市の炭鉱遺産の保存・活用の取り組み」

NEW

2018年7月に、赤平の貴重な炭鉱遺産を輝かせようと「赤平市炭鉱遺産ガイダンス施設」が開館しました。地域再生のストーリーを構築していくことは、将来多くの地域が置面する地域存続の危機を乗り越えるモデルケースと期待されます。赤平市は他に先駆けて炭鉱遺産の保存・活用の取り組みが行なわれています。



- 1989(平成元) 「炭鉱の歩みを保存・継承する懇話会」設立。「赤平百年史編さん委員会」発足。資料収集や聞き取り調査開始。
- 1994(平成6) 住友赤平炭鉱が閉山。「炭鉱資料収集保存会」が住友赤平炭鉱の関係資料、機械、器具などを収集。
- 1997(平成9) 「北の世界遺産」構想
- 1999(平成11) 「北の世界遺産推進方策検討チーム」が炭鉱遺産を「北海道遺産」へと提言。空知支庁の「そらち・炭鉱の記憶推進事業」活動が開始。赤平市では5月に「炭鉱の歴史を保存・継承する市民会議」を設立。
- 2003(平成15) 「国際鉱山ヒストリー会議」
- 2004(平成16) 「赤平炭鉱アートプロジェクト」札幌市立高専(現札幌市立大学)の教員・学生が参加。
- 2005(平成17) 「赤平コミュニティガイドクラブTANtan」発足
- 2008(平成20) 「新・北海道総合計画」で「炭鉱の記憶で地域づくり」が地域重点プロジェクトに。
- 2010(平成22) 「赤平フットパス」北海道空知総合振興局、TANtan、札幌市立大学の教員・学生がデザインで企画。「赤平コミュニティガイドクラブTANtan」が2005年～2017年に、立坑ガイドツアー、立坑ライトアップ、赤平フットパス、TANtan 祭り(2011年から)などの活動を継続して実施。
- 2014(平成26) 「札幌国際芸術祭2014」の出品作品、上遠野敏「20世紀の肖像(炭鉱の記憶)」において赤平炭鉱歴史資料館の資料と現代美術がコラボレーション。
- 2016(平成28) 住石マテリアルズより住友赤平立坑と関連施設を、赤平市に一括譲渡。「炭鉱遺産公園整備」赤平市の重点施策。
- 2017(平成29) 「住友赤平炭鉱坑内模式図」が札幌国際芸術祭2017で公開。「赤平アートプロジェクト」札幌市立大学の教員・学生、赤平市民が参加。

このように、赤平市では市民と行政が連携して炭鉱遺産を保存、活用、継承のため実践を重ねてきました。

「赤平アートプロジェクト2018」によって赤平の新たな物語を、人々の想いと協働によって紡ぎます。

赤平市炭鉱遺産ガイダンス施設

開館時間 **9:30 — 17:00**

(入館は 16:30 まで)

入館料 **無料**

(炭鉱遺産内のガイド付き見学は有料)

炭鉱遺産ガイド付き見学(有料)

・午前 10:00～

・午後 13:30～

(1時間30分程度、立坑内のみは50分程度)

赤平アートプロジェクト2018

オープニングイベント

祭太郎 (口上パフォーマンス)

9/8(土) 坑口浴場 12:50～13:00

炭鉱遺産ガイダンス施設 13:10～13:15



祭太郎さんご来場の祭には 随時「祭太郎の盆踊り」を行います。

撮影会

黒ダイヤ五郎 (炭鉱コスプレイヤー)

9/8(土)、9/9(日)、9/23(日)、10/7(日)

13:30～14:30



赤平の炭鉱遺産を未来に

北海道大学建築計画学研究室卒業設計発表会

吉水久乃 (北海道大学 建築計画学研究室 4年)

10/6(土) 15:00～16:30



立坑ライトアップ

土・日 18:00～21:00



坑口浴場展示

祭太郎 渡邊俊介 齊藤靖明 (炭鉱施設模型作家)

高丸勝義 (HIBI COLE ART 代表・炭鉱時代の昭和レトロの品々)

上遠野敏 (札幌市立大学教授)

札幌市立大学学生出品作家

徐敏 (院2)、坂元あかり (3年)、吉田奏子 (3年)、吉岡優 (3年)

(運営・ワークショップ: 札幌市立大学デザイン学部学生有志)

ガイダンス施設展示

吉水久乃 (北海道大学 建築計画学研究室 4年)

アクセスマップ



(※展示やイベントは都合により変更になる場合があります。)

お問い合わせ: そらち炭鉱の記憶マネジメントセンター ☎068-0021 岩見沢市1条西4丁目3 10:30-17:30 (月・火曜日) TEL.0126-24-9901 FAX.0126-24-9902 ✉infomc@soratan.com 🌐http://www.mc.soratan.com

フライヤーデザイン: 札幌市立大学デザイン学部3年 吉岡優